

科目名：社会学基礎演習／ Sociology (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：上田 耕介（非常勤講師）

講義コード：LB41208, **科目ナンバリング：**LHM-SOC202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ロバート・A・ダールの民主制理論

2. Course Title (授業題目)：

The Democratic Theory of Robert A. Dahl

3. 授業の目的と概要：

我々が社会を研究するとき、否応なしに「民主主義」の問題に踏み込まざるを得ない。国民（住民、市民）の参加とは何か、参加は望ましいのか、いつ望ましいのか、望ましいとすればそれはなぜか。こうした問いへの答えの如何により、社会事象に対する光の当て方は異なってくるはずである。

この授業では、代表的な民主主義理論家ダールの文献をとりあげ、参加者で分担してレジュメを作成・報告し、全員で議論していく。その作業が意図することは、授業参加者各人が、ダールを参考に（あるいは批判しつつ）自らの民主主義像の探究へと踏みだす、その端緒となることである。

4. 学習の到達目標：

- ①ダール民主制理論の概要について説明することができる。
- ②ダール理論について、自己の立場を表現することが出来る。
- ③現代社会の諸問題について、民主主義の観点から分析することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ロバート・ダールの人と学問
2. 「民主制」の世界的拡大
3. 民主制の理想①——民主的過程の規準
4. 民主制の理想②——民主制のもたらす利点
5. 民主制の理想③——本来的平等思想
6. 民主制の理想④——市民の能力
7. 民主制の現実①——ポリアーキーの特徴
8. 民主制の現実②——規模の問題
9. 民主制の現実③——多様な政治制度
10. 社会的条件①——文民統制、対外関係、文化的統一性
11. 社会的条件②——市場経済との関係
12. 将来の課題
13. 移民問題
14. 注意深い公衆
15. 新自由主義と民主制

6. 成績評価方法：

レポート（70%）、出席および議論への参加状況（30%）

7. 教科書および参考書：

参考書

R・A・ダール『デモクラシーとは何か』（岩波書店、2001 年）

その他の参考文献は授業の中で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業の中で紹介した参考文献を読み、現代社会の諸課題について民主主義という視点から考察を深める。

報告担当者は、レジュメを作成する。

9. その他：